

イセエビ

生態的特徴等

【生態】

茨城県以南の太平洋側及び長崎県以南の九州西岸に分布する。

夏に沿岸の岩礁域でふ化したフィロゾーマ幼生は、ふ化後2～3か月は沿岸に留まり、その後黒潮の南方沖合域に運ばれ、1年近い浮遊生活の後にプエルルス幼生に変態して沿岸域へ移動し、岩礁域に着底して稚エビに変態する。寿命は20歳以上。

貝類や甲殻類を主に捕食する。成長は雄の方が速く、2歳で雄は頭胸甲長※45mm、雌は42.3mm、3歳で雄は62.4mm、雌は56.2mm、4歳で雄は74.1mm、雌は64.7mm程度となる（図1）。

【漁法と盛期】

茨城県では主に固定式刺網（建網）で漁獲され、主な漁期は夏季である。 ※頭胸甲長：眼の後部の窪みから頭胸甲の後端までの長さ

【利用】

高級食材として、主に姿づくり（刺身）や焼物として利用されている。本県で漁獲されるイセエビは他県に比べて大きく、体重600g以上のイセエビは「常陸乃国いせ海老」としてブランド化されている。

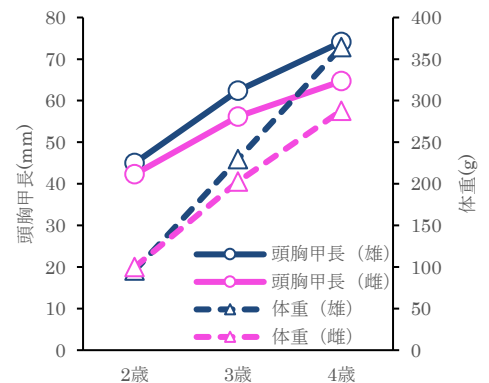


図1 イセエビの成長

資源水準は高位、動向は増加傾向

（漁獲量）漁獲量は、H12年までは10ト以下、H13年からH30年は概ね10～20トであったが、R3年以降急増し、R3年は58ト、R4年は67ト、R5年は73ト、R6年は56トとなっている（図2）。

（水準と動向）資源水準は、漁獲の9割以上を占める固定式刺網（建網）の漁獲量から計算したCPUE（kg/隻・日）から判断した。水準は「高位」、動向は直近5年間のCPUEの傾向から「増加」と判断した（図3）。

水 準



動 向

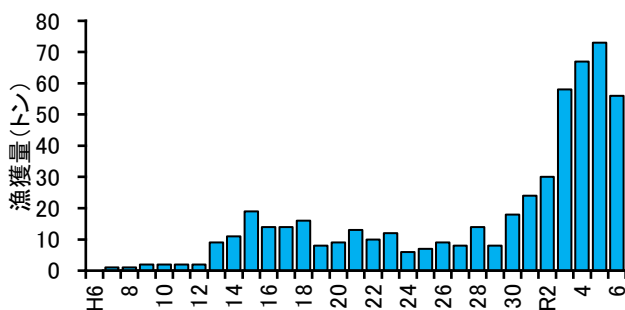
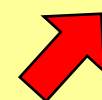


図2 茨城県のイセエビ漁獲量（農統）

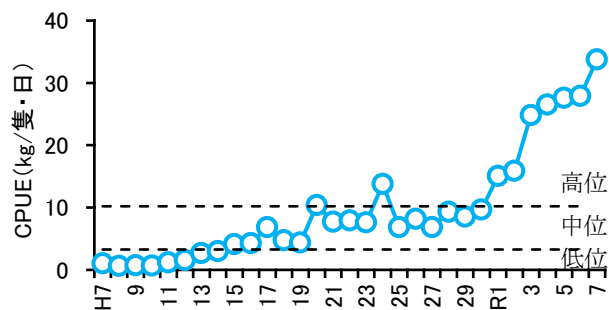


図3 茨城県のイセエビ CPUE
（水試システム、固定式刺網、属地）

【全国の漁獲動向】

・千葉県が漁獲量1位、2位は三重県、3位は和歌山県。（R6農統）

評価期間：令和7年1月～12月 更新日：令和8年3月13日

引用：水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター、千葉県水産総合研究センター、東京都島しょ農林水産総合センター、神奈川県水産技術センター、静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場、三重県水産研究所、和歌山県水産試験場、徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課、高知県水産試験場、大分県農林水産研究指導センター水産研究部、宮崎県水産試験場（2021）イセエビ、令和3（2021）年度資源評価調査報告書、水産庁・水産研究・教育機構、東京5pp、https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2021/report_2021_25.pdf